

(第3種郵便物認可)

ええやん! かんさい

オケに新風 可能性引き出す



京響初の欧州ツアーで、ウィーン公演のリハーサルに臨む井上(左端) (1997年、ウィーン楽友協会大ホール) ©K.Ikeda

長年、井上の演奏会に足を運んできた音楽評論家の小味渕彦之さん「写真」にその魅力を感じた。初めて演奏を聴いたのは1984年。踊るような指揮姿に、音楽への大きな愛と情熱を感じた。奇抜に見えるが、音楽の作り方は正攻法で真つ向勝負だ。印象に残っているのは96年のブルックナー「交響曲第7番」(京響)、2017年のシヨスタコービッチ「交響曲第11、12番」(大フィル)。特に後者は、オケとがっぷり四つに組み、命

音楽への愛と情熱

音楽評論家・小味渕彦之さん



をすり減らすほどに音楽と格闘していた。圧倒され、終演後も席から動けなかった。京響などと共演した古典派作品も魅力的だった。古典派らしい予想通りの展開を壊そうと闘う。時にうまくいかず、もがく姿も多く見られたが、その様子を含め客を楽しませた。そして、今年1月の「降福からの道」。自身に真正面から向き合い、人前にすべてさらけ出した。あれだけのエネルギーがまだあったのかと驚かされ、引退までが更に楽しみになった。

欧州ツアー、バレエ融合

当時、市議会や役所からは「京都市民が金を出さずんだから、市外で演奏しなくてもいい」という声もあった。井上自身「開いた口がふさがらないうとさえ思った」と振り返る。そんな中、京響初の欧州ツアーを成功させた。コロンゴ

さらに親密だったのが、1947年創設の大阪フィルハーモニー交響楽団だ。31歳だった78年に初共演。80年には定期演奏会で指揮をした。当時は創始者・朝比奈隆が音楽総監督の時代。偉大な巨匠を前にしても、井上は片手を上げて「こんちわ」とあい

リハーサル最終日に突然、奏者の位置やテンポを変えるなど、予定調和を嫌う姿勢は今と変わらなかったが、渡辺さんは「ずば抜けた感性で斬新だった。古典的な曲が主だったレパートリーが格段に広がり、演奏力も向上した」と評価する。



2017年、大フィルの演奏で23年ぶりに再演したバーンスタイン「ミサ」朝日新聞文化財団提供、森口ミツル撮影

「朝比奈隆が土にまみれながら作り、大阪という逆境で守り続けた。正攻法で育ってきた底力のあるオケ。著書で大フィルをこう評した井上。12月から来年にかけて、「盟友」と全5回の公演「ザ・ファイナル・カウントダウン」に臨む。

来年11月の最終回は、ベートーベンの交響曲「田園」と「運命」を大小二つの編成で演奏する。長年、井上を支えてきたマネジャーが「同じ作曲家に素朴さと激情といった異なる要素が詰まっている。これぞ井上道義」と選曲した。井上は「僕の中にも矛盾する部分がある。一人の作曲家の異なる面を一日で一つのオケで披露する。人間には、音楽には、演奏には、色んな可能性があるってことが分かってもらえる」と意欲を見せる。

*次回は24日の予定です。



井上道義引退

— 中 —

鬼才・井上道義は、関西でも強烈な足跡を残してきた。特に関係が深かった楽団は二つある。

1990〜98年、第9代常任指揮者を務めた京都市交響楽団。同楽団の音楽主幹だった渡辺正治さん(81)は「古い京都の街に新しい風を吹き込んでくれた」と懐かしむ。

上方落語四天王の一人、桂米朝(1925〜2015年)のもとで内弟子修業を積んだ3人による「兄弟会」が21日、天満天神繁昌亭(大阪市北区)の夜席で始まる。「我々の落語を通じて師匠の芸を感じてもらい、それが恩返しにつながれば」と意気込む。

米朝の芸感じて



「兄弟会」を始める桂米左(中央)、田朝(右)、八十八

弟子3人、21日に「兄弟会」

末弟、桂すずめ(女優の三林京子)を除くと、米朝直弟子の「最若手」だ。兄弟会は「一門会や独演会とは異なる門下の色を知ってほしい」と米朝事務所が企画。4か月に1度のペースで開催し、3人が順に主任(トリ)を勤める。今回は米左が担当。トリに選んだ「不動坊」は、3年間の内弟子期間の最後にリクエストをして習った演目で、「米朝からは「師匠(四代目桂米田治)に教わったのと同じように教え

る」と言われた。現代風のギャグなど入れない古風な不動坊」と明かす。田朝は米朝が創った「文笛」を、八十八は米朝がよくかけていた「馬の田楽」を演じる。内弟子時代の思い出を語る鼎談もあり、3人は「師匠の教え方は一通りではなく、弟子に合うネタを見つけ、進むべき道を示してくれた。弟子それぞれが感じる師匠の人格を伝えたい」と声をそろえる。☎06・6365・8281。

39歳、とは、巻は、超える



「断腸亭その日記をていた」冊まに描き出、不信感や、悪態もその「読んね。自分や」って田そこに闘死を目前にいられないければ、「ガン」

だ読誰